

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
2000.3.28 No. 5110

貨物ベアゼロ回答弾劾

裏切り妥結の貨物労を解体せよ

JR貨物は再回答せよ!

本日貨物第二波ストへ

昨日(3月27日)、JR貨物は「ベアゼロ、定期昇給のみ実施」という回答を行った。定年延長をはじめとしたその他の諸要求も、「年内には提案したい」というだけで全くゼロ回答だ。一方、JR貨物労はこのベアゼロ回答をその場で受け入れ裏切り妥結した。断じて許せない! 職場は怒りの声で満ちている。われわれはこの回答を怒りを込めて弾劾し、再回答を求め、春闘第二波ストライキに立ちあがる。

労働者への犠牲は絶対許せない

「7期連続の経常赤字」は何によって生みだされたものか。国鉄分割・民営化の結果に他ならない。そもそも分割・民営化体制という枠組みは、鉄道貨物輸送を「安楽死」させることを想定してつくられた仕組みだ。JR貨物の経営破たんはその必然的な帰結に他ならない。会社は、「この難局を乗り越えてこそ、当社の明るい未来がある」と信じている。などと称しているが、この十年近くの間、何十回となく行われた団体交渉のな

かでも、貨物会社は「明るい未来」などただの一度も示すことはできていない。今回の経営計画でも、作った者自身が信じていない「黒字計画」の数字合わせをしているだけのことだ。

この間彼らがやってきたのは、一切の犠牲を労働者におし着せただけのことに過ぎない。これが分割・民営化攻撃の本質であり、資本の本質だ。こんなことはもうこれ以上絶対に許せない。

ベアゼロ妥結の貨物労解体を!

また、今春闘のゼロ回答は、労働組合が、JR貨物労のような資本の手先になったときに労働者がいかなる目に合うのかを鮮明に示している。昨年「ベア百円」回答に対して貨物労は、「有額回答を引きだしたから成果だ」と称したが今度は何というのか。「マイナスではないから成果だ」とでも言うのか。

労働者をだまして、どこまでも奴隷のように屈従しつづけるのが貨物労・革マルの本質だ。貨物労・緒方は、昨年春闘前

に「ベアゼロでも思い切って我慢する」と表明していたのだ。すでに一年も前から「ベアゼロ妥結など当たり前だ」という構えだったのである。ベアゼロも、どれほど無謀な合理化・要員削減攻撃も全て率先して協力し、会社と革マルの結託体制を守るために、職場に向かつては「思い切って我慢しろ!」と強要するのが彼らの本質だ。分割・民営化を「成果だ」とかつぎまわるような連中を許すことはできない。

今春闘の全体の状況を見ても明らかとなり、NTTまでがベアゼロで終わったように、会社が儲かっていようといまいと、労働組合が資本の奴隷となったときに、労働者は徹底して痛めつけられる貨物労働者の未来と権利のために怒りの声を集中して、JR貨物労を解体しよう。

再回答せよ!

本日動労総連合は、JR貨物に対して再回答要求を提出した。本日われわれは、怒りの春闘第二波貨物ストに決起する。ベアゼロ回答弾劾! JR貨物はベアゼロ回答を撤回し直ちに再回答せよ!

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!